浄心寺だより

発　行
浄心寺門信徒会
郵便番号714-0081
笠岡市笠岡2065
電話(0865)62-2623
FAX(0865)62-2595
振替01260-9-13760
http://joshinji.suki-ari.net/

「み法を味わって」（四十九）

仏の目1

仏とは、赤を赤、白を白とありのままに見る目をもった方だと教えていただきました。赤は赤、白は白とそのまま見るということを教えてくださるお言葉が『涅槃経』にあります。

諸仏世尊、もろもろの衆生において、種姓・老少中年・貧富・時節・日月星宿・工巧・下賤・撞僕・婢使をみそなわず、ただ衆生の善心あるものを観そなわす。

というお言葉です。仏は「いのち」を見るときに、まずなによりも種姓を見るようなことをしないといわれるのです。

種姓とは生まれであり氏・素姓といわれるものです。仏はその人がどこの生まれであるか、その人の氏・素姓がどうなっているかということを一切見ないといわれるのです。私たちは多く、その人自身の素晴らしさをそのまま認めようとせず、その人がどこの生まれでどういう氏・素姓の人かを問題にし、その人を中傷したりいやしめたりします。このような「いのち」の見方が他の「いのち」の輝きを奪い、他の「いのち」をついには殺す結果を招くのです。

日本におけるすべての差別の基礎となっている部落問題は、正にこのような「いのち」の見方に立脚しています。

藤田徹文『聞光力』より

ごあんない

春季彼岸会・永代経法要

三月十九日（木）　十三時半より
ご講師　笠岡市生江浜　蓮乗寺　田井智彦師

報恩講法要厳修

寒波が到来した十二月六日、報恩講法要が勤まりました。

十一時半からは地区役員会が開かれ、正午から仏婦の調製によるお斎を礼拝堂でいただきました。

法要は十三時半から。住職が内陣出勤して正信偈をお勤めし、親鸞聖人の伝記『御伝鈔』を拝読。講師は三原市大和町の教専寺、福間義朝師でした。今回は『恩徳讃』を中心にお話し下さいました。

如来大悲の恩徳は
身を粉にしても報ずべし
師主知識の恩徳も
骨をくだきても謝すべし

この歌の前半は、阿弥陀さまのご恩を歌ったものです。

親鸞聖人の世は戦乱、飢饉、疫病などが蔓延する時代でした。仏教には人民の不安の除去が期待され、除災招福の読経などをしていました。しかし正しい仏教を学ばれた親鸞聖人は、心の救いとなる教えをひたすら求められました。

阿弥陀さまは私たちを見捨てない、無条件に抱きしめてくれる親のような存在だと言われます。

ある高校では毎年、文武に頑張った子を校長先生が表彰します。ある年特別に表彰された子がいました。その子は勉強もできず部活にも入らず、行事が終わると真っ先に帰る子だったそうです。校長先生は「あなたは病弱なお母さんの世話をしながら四人の弟妹の世話もし三年間高校にも頑張って通いました。わが校の誇りです」と。驚いていた一同はそれを聴き、納得すると同時に、こういう生徒をしっかりと見てくれていた校長先生に、自分のこともしっかり見てくれていたんだろうなと思え、この学校に通ってよかった、と感激したそうです。

この校長先生のように、阿弥陀さまは常に私たちを見守ってくださり、人知れない苦労も見ていてくださいます。阿弥陀さまにお任せする心を持ちつつ、お念仏中心の生活を送りたいものです。

やさしい仏教講座　第34回　12月12日（まとめ）

『善導大師』

正信偈の「善導独明仏正意」から「即証法性之常楽」までをみていきました。意味は「善導大師ひとりがお釈迦さまの正しい意図を明らかにされた。心静かな人も心乱れた人も極悪人も、阿弥陀仏はお哀れみになり、その光を縁とし名を因として「極楽往生を」明かされた。本願の大きな智慧の海に入れば、念仏者はダイヤモンドのように固い信心を得て、喜びの思いが「阿弥陀仏の願いと」一致した後、イダイケ夫人と同様に喜びとさとりと信心の三つの認識を得、ただちにものごとの状態の常楽我浄（真実の姿）をさとる」です。

大師は教えを広めるために経典を多く書写し、作法を定めるなど実践を勧め、龍門石窟の大仏造営の指揮も取られました。これこそ人々の救いとなる教えである、という師の思いが伝わってきます。

『お仏壇のお給仕』

ろうそくの色、仏飯の供え方、仏花、供物の種類、掃除の仕方についてみていきました。

『終わりがあるから美しい』

ライター近藤雄生さんのエッセイをみました。近藤さんは大学卒業後、プロのライターを目指し世界放浪の旅に出ます。取材記事が次第に雑誌に載るようになりますが、あるとき感動がなくなっていることに気付きます。当初は終わりのない旅のつもりでしたが、終わりがあるからこそ旅をしたい気持ちや感動があるのだと感じ始めました。そして、人生も終わりがあるからこそ今日を懸命に生きる気持ちや、今を生きる喜びがあるのではないか、と。

み教えを聞くことは、人生の終わりを確認することでもあります。そしてその先には、極楽という「また会える世界」があるのです。

令和８年度　行事計画

◎ 春季彼岸会・永代経	3月19日（木）13時30分	笠岡市・蓮乗寺 田井智彦 師
◎ 初 参 式	5月４日（祝）10時	希望者とその家族
◎ 総　　会	5月16日（土）11時30分	
◎ 降 誕 会	13時30分	チャリティコンサート、笑福亭遊喬師匠
◎ 法物虫ぼし法座	7月16日（木）13時30分	府中市・慶照寺 田坂英尊 師
◎ サマースクール	7月22日（水）10時から21時	長谷川憲章 師
◎ お盆法要	8月14日（金）15日（土）	住職
◎ 秋季彼岸会・永代経	9月25日（金）13時30分	三原市大和町・浄楽寺 栗原一乗 師
◎ 地区委員会	12月５日（土）11時30分	
◎ 報 恩 講	13時30分	三原市大和町・徳正寺 徳正俊平 師
◎ 除夜会・修正会	12月31日（木）23時40分	
◎ 新春のつどい	令和９年１月中旬	
◎ 春季彼岸会・永代経	令和９年３月 日時未定	講師未定
あさのおつとめ	毎朝6時	
◇ やさしい仏教講座	【36】4/22（水）【37】6/18（木）【38】8/26（水）【39】10/5（月） 【40】12/18（金）【41】2/8（月）　毎回 14時　解説：住職	
◇ 境内清掃のつどい	毎月15日 13時30分より（但し1,8,9月はお休み、6,7月は7:30から）	
※「浄心寺だより」発刊	155号（5月）　156号（7月）　157号（11月）　158号（3月）	
仏教婦人会	総会 例会 各種研修会 料理教室 清掃奉仕など 5/4 初参式	
文化箏同好会	毎月第1金曜日 13時30分	指導:平田澄子 先生
女声コーラスコール清風	毎月第1木曜日 9時30分	指導:平田澄子 先生
本山関係	千鳥ヶ淵全戦死者追悼法要 など	
備後教区	各種研修会 定例法座（毎月11日）報恩講（11/30）総代研修会	
備中里組	連続研修会	

家族そろってお聴聞

―― み教えは日々の生活のよりどころ ――

門信徒の広場

地区委員さん登場

横島地区
長安 圭一 さん

当地区には、真宗門徒に本願寺派と大谷派の二派があり、大谷派では布教所を設けて勢力拡大を図った歴史があり、かなり複雑な時期があったとの事でした。

十年程前から地区総代として門信徒二十二戸を担当されています。定年退職後、浄心寺の「おあさじ」への参加がきっかけで、前住職から門信徒会庶務に任じられ、更に本山での教修を経て門徒推進員に就任されました。その後、寺院総代にも加わり、現在に至ります。

最近体調の優れない日々が続くため、この度後任に地区総代を委ねられました。今後は、ひたすら阿弥陀のお浄土を目指すと笑顔で話されました。

（高田泰紀 記）

やさしい仏教講座 第35回 2月18日（まとめ）

『奇跡がおきた？』

作文コンクールで優秀賞の男の子の作品です。男の子が車と衝突し、何とか一命をとりとめた話ですが、男の子は助かって、奇跡だ、と思いました。しかしお母さんから、その場に居合わせたいろんな人が助けてくれて、またお医者さん等のおかげもあり助かったのよ、と諭され、おかげさまの世界に気づかされた、という話です。

それに対し、ある宗教雑誌の体験談を紹介しました。そこでは、ある言葉を唱えたら息子のアトピーが治った、とか目的地までの信号がすべて青だった、とか、因果関係のない話を結び付けて、奇跡ととらえています。

どちらが仏教的な考え方でしょうか？お釈迦さまは正しい因果関係をとらえることの大切さを説かれました。これは「縁起」と呼ばれ、すべての物事は科学的に正しい原因や条件にもとづいて起こる、という道理のことです。

宗教に奇跡を求めてしまうと、地に足の着いた生活が送れなくなり、悩みも深まってしまいます。病気になったら、お祓いをするのではなく、病院に行きましょう。

『二河白道』

善導大師の説かれた「二河白道」のたとえをみていきました。

これは阿弥陀如来の救いを分かりやすく喩えたもので、ある旅人が川にさしかかると目の前には濁流の川と炎渦巻く川があり、後ろには盗賊や獣などが迫ってくる。両川の間には一本の細く白い道が延び、この道を進むよう勧めるお釈迦さまの声と、対岸からはこちら側に来るよう呼ぶ阿弥陀さまの声がする。意を決してこの道を進み、旅人は安心できる場所にたどり着いた、というものです。

中国の三祖師の中でも、特に善導大師は浄土教の普及に活躍され、極楽往生は中国で爆発的な人気を集めるようになりました。

『食前食後のことば』

浄土真宗の食事の作法で、感謝の言葉を食前食後に唱えます。

現在定められている言葉は平成二十二年から使われているもので、昭和三十三年から長年使われてきた言葉を改訂したものです。

地区委員さんの交代

番町東地区
（前）佐藤　正明さん
（新）三谷　泰輔さん

入江西地区
（前）水川　仁さん
（新）藤川　秀樹さん

新横島・緑町地区
（前）伊藤　映子さん
（新）髙橋　滇隆（ひろたか）さん

横島地区総代
（前）長安　圭一さん
（新）長安　孝治さん

ありがとう

小菊懸崖作り花壇1対
入江　住谷大志さん

新春のつどい

一月二十一日正午より、聚園にて開かれました。三十名が参加。

文化箏の弾き初めに始まり、長安圭一さんの乾杯の音頭の後、カラオケ、コーラス、百歳体操、クイズ大会などで次第に盛り上がっていきました。

最後は恒例の福引きをして解散。寒波到来で寒い日でしたが、体も心も温まって帰途につきました。

仏婦研修旅行

十一月十日、仏教婦人会で大阪、津村別院を参拝しました。二十五名で出発、十時すぎに別院に到着、お参りの後、展示室で別院の歴史を見学。興味深い内容に足が止まり、時間オーバー。

その後、近くの綿業会館を訪れ、ガイドさんに案内してもらいました。昭和初期に紡績業の組合員のために建てられたビルが空襲を免れたもので、洋式の見事なデザインや豪華な内装にため息がもれました。会員しか利用できない建物ですが、今回はここで昼食。

その後、急ぎ足で高層ビルあべのハルカスで買い物をして、帰途につきました。

ちなみに会館メンバーにはクラボウやシキボウがあり、今も近くに社屋があります。シキボウは笠岡駅南にありましたが、そのマークが今のシーサイドモールに使われています。また九州の女工が多かったシキボウには浄土真宗の仏壇がありましたが、現在浄心寺の庫裡聚園に移されています。

仏具おみがき

一年間の本堂の仏具の汚れを落とす「おみがき」が、十一月十三日に行われました。

婦人会の方々十数名が参加し、九時より取り外された仏具のおみがきを行いました。一つ一つの部品を流れ作業できれいに磨き、仏具も輝きを取り戻しました。

餃子作り教室

仏教婦人会で十一月一日、中国人の先生をお迎えし餃子教室が開かれました。王秀鈴（山本）先生で、今回が二回目です。

皮から作る本格的な餃子が出来上がり、肉汁の出るアツアツのうまさに感嘆の声があがりました。

除夜会 修正会

12月31日

川柳

前だけを向いて考えないかぼちゃ

藤井智史

川柳

十トンの重りを乗せている本音

藤井智史

還浄（げんじょう）

（敬称略）

小林　勝	10・16	97	樋　守
佐場　伸次	11・8	73	大井南
横田　幸夫	11・17	90	神島外
原田　富子	11・30	89	鴨方町
大江今朝松	12・11	93	吉　田
新本　健次	12・16	84	西の浜
藤井浩一郎	12・21	79	生江浜
田中　賢三	12・22	98	福山市
道面　鈴子	12・24	94	園　井
小山　敬子	1・25	104	岡山市
藤井エイ子	1・31	89	生江浜
桒田　弘子	2・5	95	樋　守
向迫　利勝	2・8	78	金　浦
桝平由起雄	2・8	90	大久保
大黒司和枝	2・9	98	一番町
佐々木世津子	2・11	95	大　井
永井冨美恵	2・16	86	鴨方町

浄土真宗のあゆみ

親鸞聖人の生涯２

『悪』の社会的諸相

「悪」は古くよりある表現と思いがちですが、頻出は十一～十二世紀頃からで、それ以前は「不善」「不善の輩」でした。「不善の輩」とは強盗（盗み行為を働く人々）・放火・賭け事（博打・双六）をする人びと、およそ為政者からみて、よからぬ行動をする人びとで、農業に従事しない人びとや諸国をめぐり生計を立てる人びとも多く含んでいます。十三世紀に入ると「不善」の用例は減少し、「悪人・悪行人・悪党」など「悪」の表現を冠する社会的諸相が増加します。

殺生行為は「悪」といわれ、食糧を得るための限度をこえた狩猟・漁労による殺生も「悪」といわれています。また僧侶でありながら武器をとり、「悪僧」（「僧兵」）と称されました。彼らは高利貸しも行い、商業・金融活動を通じ巨利を得ていました。これも「悪」とよばれていました。限度範囲内で行う限り、金融などは肯定される行為でしたが、これをこえて富への欲望に取りつかれ、高利子を取り立てる行為が「悪」と表現されたのです。したがって商工民・金融業者も「悪人・悪行人」とよばれるようになりました。

十二世紀以降を「悪」の社会的諸相の時代とした最大の出来事は、関東の鎌倉幕府の成立でした。この政権を支えた多くの武士たちは、狩猟＝獣や弓馬に熟達し、戦を日常のこととして、生死に常に直面して生きる新たな人たちでした。

このような武士や金融業者・狩猟民なども含み「悪」と称される、従来の人々の行為をこえた新たな人たちが、十二、三世紀に日本社会に誕生してきたのでした。これら新勢力の台頭が古い社会を転換させる原動力となり、前述の内乱などの社会不安を生じさせたのでした。「悪」の社会的諸相のなかに人びとの多様な苦悩の現実があり、新たな救済を求める動きが広がりを見せていたのでした。

『み教えと歩む』より

ダーナバザー開催

4／18（土）10時半より（午前中）境内にてバザーを開きます。

例年通り、物品と手作りの食品などたくさんの品が並びます。どうぞお誘い合わせてお越しください。

★☆バザーの物品募集☆★

お家に眠っているバザーに出品できる品物があれば、4月10日までに浄心寺へお持ちください。中古品や衣類はご遠慮ください。

初参式のごあんない

5月4日（みどりの日）10時より本堂にて

お子さんの初めてのお寺参りです。七・五・三に代わる儀式として、ぜひご参加ください。

就学前のお子さんが対象です。参加費一人１０００円。

お盆参りの中止について

各お宅を回るお盆参りは中止にし、お寺での「お盆法要」にお参りいただいています。

ご自宅へのお盆参りをご希望の方は、**6月25日までに**お知らせください。日時を調整し、後日お参りの日程をお知らせします。

お盆法要は

8月14日9時、11時、14時、15日10時、14時です。

いずれかにご参拝ください。

川柳

感染源です竜宮城の酒　**藤井智史**

編集後記

厳しい寒波も過ぎて早春の息吹が感じられる頃になりました。

来る３月１９日の春季彼岸会、永代経法要等のご案内の浄心寺だより第１５４号をお届けします。

本年度の行事予定も載せておりますのでどうぞお参りください。

余寒厳しき折ですが、桜の便りもあと少し、ご自愛ください。

（編集委員Ｓ）